

千葉競輪場の現状について

平成24年10月

千葉市公営事業事務所

はじめに

I 競輪の仕組み

1	競輪事業とは	1
2	競輪事業の仕組み	1
3	売上金の仕組み	2
	(1) 本場開催の場合	
	(2) 千葉場で他の開催を発売する場合	
4	売上金の推移	2
5	競輪開催について	3
	(1) 開催日数	
	(2) レースについて	
6	場外車券売り場について	4
	(1) サテライト鴨川	
	(2) サテライト成田	
	(3) サテライト市原	

II 現状と課題

1	入場者と車券売上	5
	(1) 入場者数の推移	
	(2) 開催の状況と車券発売金額の推移	

III 組織

1	組織図	7
2	事務分掌	7
3	職員数の推移	7

IV 施設

1	概要	8
2	改修	8

用語解説

はじめに

競輪事業は、公営競技の一つとして自転車競技法が昭和 23 年 8 月に施行され、地方財政の健全化を図るほか、自転車その他の機械の改良及び輸出の振興、機械工業の合理化並びに体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に寄与するために行うこととされている。

千葉競輪場においては、昭和 24 年 8 月 30 日に全国 11 番目の競輪場として許可され、同年 9 月 16 日に千葉公園陸上競技場内競輪場において第 1 回千葉市営競輪を開催してから現在まで 63 年間の長きにわたり運営されており、この間、平成 23 年度までには 1 兆 2559 億円もの車券発売を行い、経済の活性化に寄与するとともに収益から 602 億円を一般会計に繰出し、市財政に大きく貢献してきた。

しかしながら、近年の趣味やレジャーの多様化、お客様の高齢化、少子高齢化に伴う経済構造の変化、急速な景気の悪化などの影響により、車券発売金額は平成 7 年度の 652 億円をピークに年々減少し、平成 14 年度には 171 億円と 200 億円を割り込み、また、一般会計への繰出金も平成 8 年度の 19.5 億円をピークに減少し、平成 17 年度で選手宿舍の償還は終わったが、平成 21 年度からの一般会計への繰出金は毎年 1,000 万円にとどまっている。

全国的には、かつて 50 場の競輪場があったが、収益の悪化から廃止された競輪場もあり、現在では 44 場となっている。最近では、平成 22 年度をもって、大津市が累積赤字解消の見通しが立たずに競輪事業から撤退したため、大津びわこ競輪場が廃止された。さらに、平成 24 年 3 月末日をもって観音寺競輪場（観音寺市）が競輪事業を撤退し、平成 24 年 4 月より場外車券場となった。

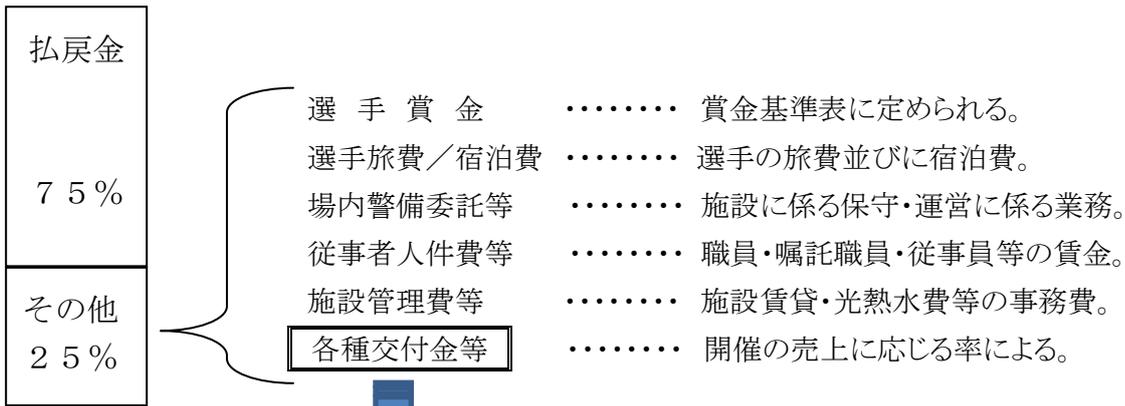
千葉競輪場においても車券発売金額減少が続く状況から、さらなる経営の合理化と売上浮揚策を講じなければ、近い将来には赤字も懸念される。

競輪事業の使命は市財政への貢献にあるが、それ以外にも、地域経済の活性化、市民の雇用の場の確保などにも寄与しており、仮に赤字に転落し、競輪事業から撤退することが生じた場合、地域経済にも多大な影響を及ぼすと考えられる。

このような状況から平成 25 年度より民間事業者のノウハウを活かし委託を一体化する民間包括委託を導入するため、「千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会」を設置し、包括委託業者の公募の検討・選定及びその後の評価を行うものとする。これにより安定的な事業収益を確保して一般会計への繰出しを行う事と市財政に貢献するための経営改善の検討を行っていく予定である。

3 売上金の仕組み

(1) 本場開催の場合

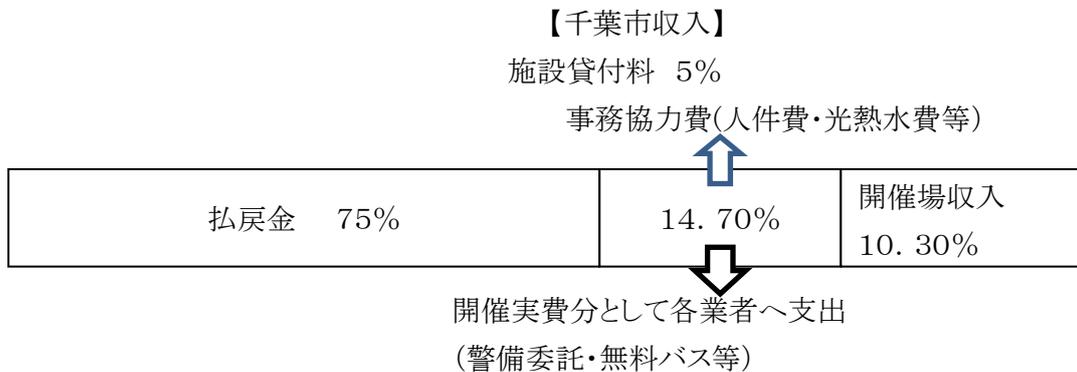


JKA(旧日本自転車振興会交付金) = 自転車競技法第16条「競輪振興法人への交付金」
(競輪施行者は売上金に応じて交付する)

地方公共団体金融機構納付金 = 地方財政法第32条の2「公営競技を行う地方公共団体の納付金」(公営企業に係る地方債の利息の軽減に資するための資金として売上金の1000分の12以内において政令で定める率を乗じて得た額を納付する。)

全国競輪施行者協議会分担金 = 全国競輪施行者協議会定款第6条「会員の権利、義務」(総会の定める所により会費及び分担金を納付する)

(2) 千葉場で他の開催を発売する場合



4 売上金の推移

(単位:億)

年度	全国45場計 (平成22年度末)	千葉競輪
平成17年度	8,775	159
平成18年度	8,611	160
平成19年度	8,401	145
平成20年度	7,913	143
平成21年度	7,276	145
平成22年度	6,350	119
平成23年度	6,230	129

5 競輪開催について(平成23年度)

- (1) 開催日数 本場開催 52日 (上期) 24日 (下期) 28日
 * (東日本大震災の影響により上期 6 日間見合わせ)
 場外開催(併売含) 240日 を予定。
 ナイター場外発売 (上期) 2日 (サマーナイトフェスティバル松山 G II)

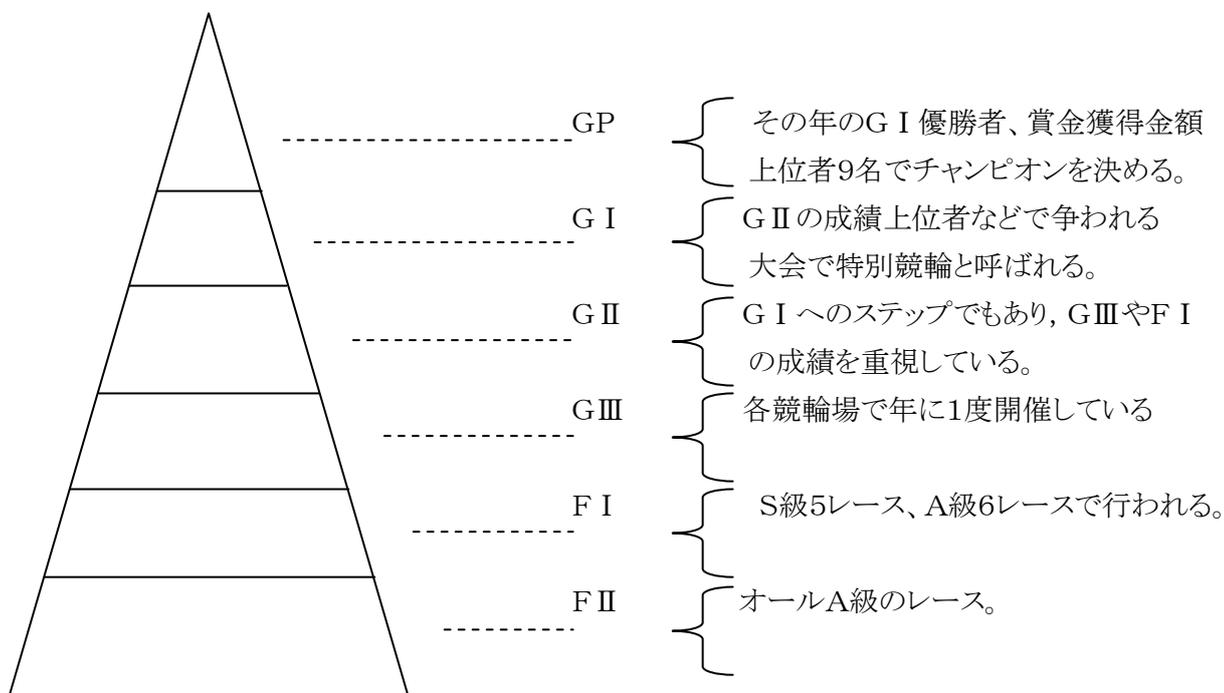
【内 訳】

G III開催(下期)	4日	開設 62 周年記念
F I 開催(上期)	12日	白鳥杯・グランドチャンピオン・南関カップ・プロスポーツ杯
F I 開催(下期)	9日	デイリースポーツ杯・東中杯・東出杯
F II 開催(上期)	12日	
F II 開催(下期)	15日	

(2) レースについて

全国には44の競輪場があり、1年を通してF IIからGP(グランプリ)に※グレード分けされたレースが行われている。レースは基本的に1日あたり1から11レースまでを、3~4日間の日程で開催される。(特別競輪等を除く)1つのレースに出走する選手は、9名で、S・S級S級とA級に大別されるが、F IIのA級チャレンジレースは7名となる。

競輪の新しい目玉となる女性だけのレース、ガールズケイリン(7車立)が平成24年7月より実施された。



※

Gとは、グレード(階級) Fとは、ファンダメンタル(基礎的な)
 GPとは、グランプリ
 G I = 日本選手権・高松宮記念杯・寛仁親王牌・オールスター・全日本選抜・競輪祭・SSシリーズ(H23 まで)
 G II = 共同通信社杯・ヤンググランプリ・サマーナイトフェスティバル・東西王座戦(H23 まで)

6 場外車券売り場について

(1) サテライト鴨川

平成14年6月8日に、全国で31番目となる場外車券売場を開設した。
鉄筋コンクリート2階建・座席数は1階265席2階座席数50席で収容人数は1,000名。年間280日販売している。
設置者は、株式会社サテライト鴨川である。

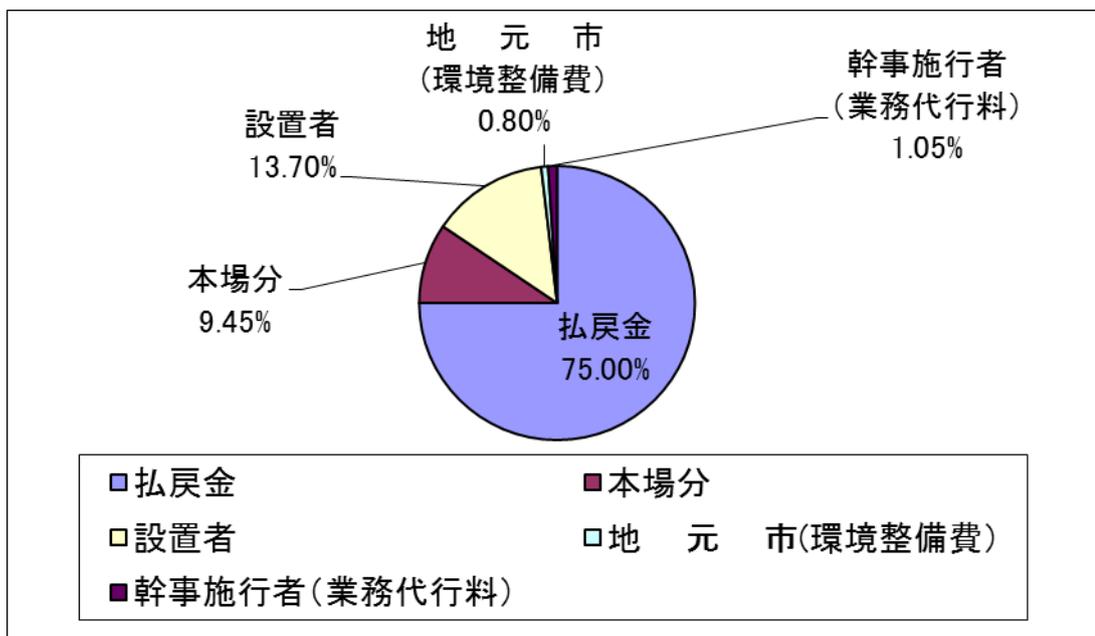
(2) サテライト成田

平成20年7月26日、芝山町の成田空港に隣接する場所に開設した。
施設は鉄骨造り2階建で、収容人数800名。年間300日発売している。
設置者は株式会社ガードワンである。

(3) サテライト市原

平成20年8月23日に全国では3番目となる競艇と競輪の併設としてオープンし、千葉市と東京都十一市競輪事業組合による幹事施行で、設置者(株)折本産業が発売業務を行う。
建物は、旧スーパーダイエーの建物を改修したもので、売り場は全体の9割を競艇が占めており、競輪車券売場は2階の一部で、収容人数は910人である。
ナイター発売を含め1日当たり4場の発売が可能で年間360日の発売をしている。

< 場外開催の場合の経費配分例 >



< 本場開催の場合はサテライトの施設使用料が発生する >
売上金の9.5%から11%を業務委託料として支出される。

II 現状と課題

1 入場者と車券売上

(1) 入場者数の推移

市営競輪の本場入場者数の推移をみると、昭和40年代には年間100万人程度であったものが、昭和50年代から60年代にかけて60万人台まで低下し、その後も平成8年度までは50万人台を確保してきた。

しかし、バブル経済後の経済環境やレジャーの多様化の影響のほか、電話投票や場外など発売形態の多様化とも相まって、平成10年度以降40万人から減少を続け、平成16年度は20万人を下回り、平成22年度から10万人を下回っている。

これまでに来場者の確保対策として、スピードくじ、選手のトークショー、特別観覧席の料金値下げなどの様々なファンサービスを実施してきたが、入場者数減少に歯止めをかけるまでには至っていない。

現在、来場するお客様はほとんどが60歳以上の男性であるという状況から持続可能な競輪事業とするためには新たなお客様の開拓が課題となっている。課題を解消するためには、今後も新規競輪ファン開拓のための初心者教室や外国人顧客誘致の施策等を実施し、ニーズにあったファンサービスを行う必要がある。

(2) 開催の状況と車券発売金額の推移

千葉競輪場の開催は、平成11年度までは千葉県競輪組合^{※4}が年間6回開催し、市営競輪は年間6回、普通競輪と記念競輪^{※5}を中心に展開してきた。

収益の悪化により平成11年度をもって千葉県競輪組合が撤退し、平成12年度より市営競輪は年間12回を開催することになった。平成23年度の開催実績は、記念開催（GⅢ）4日、普通開催（FⅠ）21日、普通開催（FⅡ）27日の合計52日の開催となっている（東日本大震災の影響で普通開催（FⅡ）が6日開催中止となった）。

特別競輪^{※5}については、日本選手権競輪を昭和46年度・昭和49年度・昭和50年度・昭和55年度・昭和58年度・昭和61年度・平成7年度・平成11年度に開催し、オールスター競輪を昭和52年度に開催した。

現在は、平成11年度以降特別競輪からは遠ざかっている状態である。

一方、平成14年度には千葉競輪を中心に発売する専用場外としてサテライト鴨川が開設され、以降、平成20年度からサテライト成田、市原が開設された。

また、平成21年度には、新規ファンの獲得とくじ需要の創出のため「競輪くじ、チャリ・ロト^{※6}」の発売も開始し、売上の向上に努めてきた。

こうした開催の変化もあるが、車券発売金額は、次ページの車券売上高の状況のとおり、平成7年度をピークに減少傾向となり、近年の極めて厳しい経済情勢を反映し、平成14年度は、昭和47年度以来30年ぶりに200億円を下回る171億円の車券売上高となっている。

千葉競輪場車券売上高及び一般会計繰出金状況表(開設年～)

(単位:人・千円)

年度	入場人員	車券売上高	一般会計繰出金	年度	入場人員	車券売上高	一般会計繰出金
S24	352,600	543,936	44,336	55	1,039,344	40,970,845	2,500,000
25	473,495	890,801	73,970	56	841,567	30,107,606	2,300,000
26	425,021	967,578	70,855	57	796,491	30,339,652	2,000,000
27	381,499	1,032,415	59,500	58	741,262	35,313,073	2,300,000
28	356,187	1,086,991	65,958	59	655,550	26,436,741	1,800,000
29	371,152	1,025,438	65,224	60	634,364	27,721,327	1,600,000
30	300,959	852,428	58,500	61	585,970	46,101,936	1,950,000
31	335,514	1,147,559	76,093	62	554,864	28,975,500	0
32	344,437	1,368,111	91,223	63	603,752	33,713,758	1,850,000
33	337,413	1,427,665	104,592	H元	603,560	37,476,295	1,950,000
34	351,427	1,495,638	99,003	2	584,048	40,806,792	1,900,000
35	410,627	1,650,257	141,053	3	534,734	38,827,872	1,900,000
36	458,795	2,231,058	188,952	4	580,025	38,396,012	1,900,000
37	581,869	3,192,936	266,428	5	640,210	40,709,201	1,900,000
38	552,263	3,340,951	318,188	6	550,991	34,796,974	1,950,000
39	612,410	4,149,257	350,000	7	449,272	65,203,138	1,950,000
40	697,492	4,903,028	353,000	8	512,647	29,784,151	1,950,000
41	832,364	6,449,923	460,000	9	497,874	30,691,754	1,200,000
42	927,055	7,899,945	895,500	10	449,069	29,158,454	500,000
43	1,051,638	10,405,084	862,000	11	382,444	53,004,012	0
44	1,118,896	13,036,758	1,571,000	12	341,776	21,437,161	0
45	1,128,506	15,029,310	1,186,000	13	312,026	20,394,350	0
46	1,322,089	19,580,759	1,578,000	14	241,434	17,143,382	0
47	1,227,619	19,850,653	1,921,000	15	231,259	15,390,449	0
48	1,357,424	26,149,935	2,400,000	16	193,234	16,076,257	0
49	1,389,459	31,043,779	2,920,000	17	167,037	15,890,263	0
50	1,267,735	29,997,558	2,800,000	18	144,163	16,037,011	0
51	1,097,893	26,479,798	2,000,000	19	139,408	14,504,039	100,000
52	1,040,993	30,057,784	1,720,000	20	139,853	14,349,989	100,000
53	981,410	28,909,131	1,720,000	21	116,878	14,485,459	10,000
54	950,485	30,753,324	2,150,000	22	97,107	11,866,968	10,000
小計	23,036,726	326,949,788	26,610,375	23	91,290	12,840,274	10,000
				小計	14,453,503	928,950,695	33,630,000
総 合 計					37,490,229	1,255,900,483	60,240,375

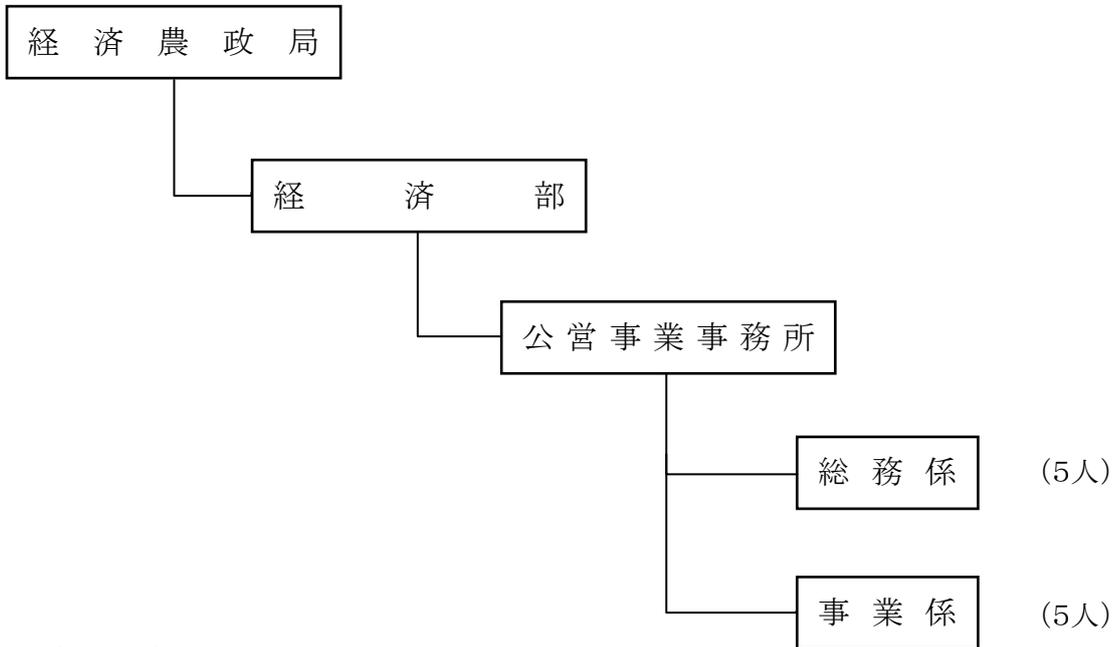
※S27～H11 までは競輪組合開催分を含む。

H12 より千葉市単独開催。

入場人員は有料入場者数

Ⅲ 組織

1 組織図



2 事務分掌

- (1) 所の庶務に関すること。
- (2) 競輪場施設及び備品の管理並びに施設の使用許可に関すること。
- (3) 競輪場の警備に関すること。
- (4) 従事員の雇用、サービスその他身分に関すること。
- (5) 従事員の給与及び保険に関すること。
- (6) 車券の検収及び調査に関すること。
- (7) 投票関係事務に関すること。
- (8) 払戻金及び未払金に関すること。
- (9) 競輪に係る宣伝広報の企画及び実施に関すること。

3 職員数の推移

単位：人

年 度	15 年度	年 度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
管 理 職	3	管理職	3	3	3	3	3	3	3	3
総 務 係	5	総務係	5	5	5	5	5	4	5	5
事業管理係	7	事業係	7	7	6	5	5	7	6	5
事業推進係	3									
合 計	18	合 計	15	15	14	13	13	14	14	13

2012・10・1現在

IV 施設

1 概要

設置年月日……………昭和24年8月30日

敷地面積 ……………44, 316. 18㎡

競走路 ……………周長=500m フィールド=テニスコート&多目的球技場

観客収容人数 ……35, 000人

メインスタンド ……鉄骨造地下1階・地上4階(1F=エントランスホール)

(2F=特別観覧席 500円)

(3F=特別観覧席 500円)

(4F=ロイヤルルーム 2,000円)

(来賓室・多目的室・講習室・開催本部等)

駐車場 ……第1駐車場～第5駐車場で485台

ファンサービス ……食堂・売店・休憩所・手荷物預所・救護室・総合案内・婦人子供休憩所
初心者ガイダンス他

2 改修

千葉競輪場は昭和24年9月にオープンし、長年の懸案でありましたメインスタンドの改築、並びに投票業務制度を一新するトータルゼータシステムの更新事業を平成4年6月に実施して建設された。また、平成8年6月に選手宿舎を建て替えた。

競走路については平成20年にウォークトップ塗装、平成24年に同じくウォークトップ塗装を行い走路内を整備した。また、老朽化した衝突フェンス(ポリカーボ板)の交換を平成24年に行った。設備については空調機器の更新を随時行っている。

【千葉競輪場工事履歴】

年度	工事名	契約額	業種
20年	競走路補修工事	38,708,250	土木
	競走路照明設備設置工事	49,717,500	電気
	エンドレスカメラタワー設置工事及び電気設備工事	19,677,000	建築
	第一休憩所他空調設備改修工事	21,735,000	空調
	合計	129,837,750	
21年	第七投票所屋根防水改修工事	7,590,450	建築
	第一投票所他空調機改修工事	34,912,500	空調
	UPS バッテリーユニット盤改修工事	8,143,800	電気
	合計	50,646,750	
22年	食堂棟他空調設備改修工事	23,310,000	空調
	無停電電源装置改修工事	19,687,500	電気
	地デジ対応化工事(競輪場及びサイクル会館)	3,712,800	電気
	合計	46,710,300	
23年	第七投票所空調設備改修工事	11,039,700	空調
	合計	11,039,700	
24年	競走路補修工事	41,342,700	土木
	検車場外空調設備改修工事	25,557,000	空調
	合計	66,899,700	

※1 (財) JKA

競輪とオートレースの振興法人。選手・審判や自転車・小型自動車の登録、競輪とオートレースの実施方法の制定、選手の出場あっせん、養成・訓練を行うほか、自転車・小型自動車等機械工業の振興、体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に対する補助等を行っている。

※2 (財) 日本自転車競技会

競輪の実施に関する業務を行う団体。審判・番組・管理・車検等を開催現場で行う。

※3 地方共同法人地方公共団体金融機構

地方公共団体に対して長期かつ低利の資金を融通し、資本市場からの資金調達に関して支援を実施する事で、地方公共団体の財政の健全な運営及び住民の福祉の増進に寄与している。公営競技（競馬、競輪、オートレース、競艇）は収益金の一部を納付している。

※4 千葉県競輪組合

昭和27年より市川市外六市自転車競技施行組合が設立され、その後、県内の多くの市が開催権の指定を受け、千葉県八市競輪組合や千葉県新市競輪組合が設立されたが、競輪組合の一元化により昭和44年より千葉県競輪組合に統合され、県内26市が加入し、市川市が管理者となり千葉競輪場年間6開催を運営していた。

平成11年度をもって千葉競輪場から撤退した。

※5 普通競輪と記念競輪・特別競輪

競輪のレースはGPを頂点にGI、GII、GIII、FI、FIIと6つのグレードに分かれている。GPは特別競走、GI、GIIは特別競輪と呼ばれ、年に9回しか開催されない。GIIIは記念競輪と呼ばれ、各競輪場で年1回行われる。その他FI、FIIの開催を普通競輪と呼ぶ。

※6 競輪くじ・チャリ・ロト

パソコンやケータイから気軽に参加できるオンライン投票サイト。

くじ感覚で最大12億円の高配当を狙えるチャリロト（200円券で後半7レースの1着をコンピューターがランダムにくじ番号を発行する）、チャリロトセレクト（100円券で後半7レースの1着を予想する）、チャリロト5（100円券で後半5レースの1着を予想する）、チャリロト3（100円券で後半3レースの1着を予想する）の4種類がある。

※7 (社) 日本競輪選手会

選手全体を代表する社団法人。選手の適正な出場条件の確保、競技技術及び資質の向上を図り、競技の公正・円滑な運営に寄与する事を目的としている

※8 (社) 全国競輪施行者協議会

全国の競輪施行者を会員とし、競輪の円滑な運営に寄与する事を目的とした社団法人。